



除服は仰申共其形拜外三大臣之身歎不設  
新年に松飾と改定地旅と云て國光と祝するに  
別者足弟二人川に祝儀と書す

長政入来唐野海船祝三咽喉傍腰

老父遺愛掛物等々列上段此長持掃除且  
丙子以来五年の遺筆と撰閱海軍上長徳林と書す  
掃除

晩年岩井豊野書来酒飯及多書留中口以不來  
萩原社修液之金坑之沈焼之茶統以各一箇封系  
改定は共向合ふ法

二日晴 此酒葉山先生之書州と云。山岡封系及了り  
四族の三の子改高即不來中紙二來吸年之謝礼也

午時曾根徳虎子改高雅不來版さくおす右根興重書す  
家人青山墓系書す年改六十錢半書す

晩年古海下條書す其相出書す中書す  
尊吸子相花笛之電報相相之報或之報到此生也

此七年吸束書す二十三各  
書故勅書相大確方を携入家内改定改定書す  
此書寫し得方と云。此熱考と云年改高法と云

三月晴

祝三不快書なり新書と書作迄の世形勅書も此り此相  
手々思ふ所書す其勤行年改二時之足舞々書す  
寺田以來事。極々有書す其年改の腫物と書す  
之形書す此相書す其書す其書す其書す  
又書す其書す。張滿房不來年改酒食と書す

山吉盛典入来不日留縣  
 以任二所入来祝三三三  
 因慶内腫北北北三三三  
 北澤正成来中勝海舟舟舟  
 昨晚食七倍了  
 初月黑忠利入来酒飯  
 草以送極昨夜午七时  
 事以送中中中中中中  
 初入波。五代後藤  
 海軍中中中中中中  
 定時海軍一人先先先先先先  
 冒晴

政事始音官丹省は於八府を勤

一本類ちの新聞文代者ヲ以て葬儀に礼金をせよ  
 徳子等身の上泉徳以て杉野歌詠と一刺を所  
 差了 目錄

一金二十五圓也

- 一十二圓 教正以下刻印下御禮
- 一十圓 樂人七名御禮
- 一三圓 靈前山海味料

在威院葬儀に於て進上也  
 昭和五年一月  
 本類古事務所  
 奈良島誠市

一名内省由勤伊地知り内治及奉事四條徳本  
正卿兩極美故伊知り交大臣多許と奉事之先  
造神宮居りて

一青山暮糸初石系多里州

一伊地知り年耳初石年而居り奉事可なり先生志心  
宜なり熱海入波流あり又洞河日勤可なり

酒飯之能事あり

一松平在獄夜舌聞と年其而居り古深切り

一本姓あり内田合味入東淡徑

一松九時辰候渡河ありあり無房所多し因り徳治也  
是探索能事あり其指本我持可なり  
海軍省就年居水安社候  
世通平神居り

此水亡之初一田達夜中母公心要く不親森  
五音晴

十時室内有新身直居り奉事酒饌下戴り各園後  
湯宴列居り和製料理と下賜せり

青山暮糸 万吉火子記舞り酒并贈

威燈院標一回忘身曉來切願あり信宿徳来東  
七時五由草列阿房母子以并阿運長飯久米奉  
奉事奉命一奉事と其五也奉事向新中川英右  
葉子一其訪奉事と其五也新心生代奉 相平とあり

一林部心入大八祝三丁奉

六百頃吹来小雨

之五内省者勤時

醒上松原清治伊太利軍艦、皇族が公に志冠を奉り祀

吉野の事は如何 且下青山暮末御書一冊

一山老盛義北より書北東に院院一冊件お尋なり

十月十六日北東より院院伝信巻読器に民間抗既亦亦無人

の内止及食止法廷に院院伝信巻読器に民間抗既亦亦無人

院院伝信巻読器に民間抗既亦亦無人

